

洋書輸入協会会報

VOL. 22
NO. 4

(通巻252号) 1988年4月

理事会報告

2月26日(金)

(一) 一月分収支計算・予算対比表

総務委員会での検討の結果にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 1987年1月—12月洋書輸入通関統計表

この統計表の抜粋が配布され、討論された。一月から冊数が重量(kg)に変わったことも報告された。(本会報3月号を参照)。

(三) シンガポール出版業代表团

本代表团に関する日本貿易振興会(JETRO)からの申し入れについて事務局長から報告された。3月9日(木)出版クラブにおいて開催されるJBIAとの話し合いについては会員に連絡し、希望者が参加できるようにすることとなった。

(四) 日米図書館大会

本年十月米国において開催される本大会への募金について書籍出版協会から連絡のあったことが報告され、さらに検討をつづけることとなった。

(五) 選挙管理委員会

規約上選挙管理委員会の委嘱を急ぐこととし、その人選をおこない、下記のとおり委嘱することとなった。

第一出版貿易(委員長) ナウカ USP 医学書院

トッパン メクレンブルグ商会 中央洋書 海外出版貿易 北尾書籍(順序不同)

(六) 移 転

相武住宅社長の出席を要請し、移転に伴う補償問題について話し合った。いくらかは弾力的に考える余地がある、ということが相武住宅側から表明された。

(七) その他。

3月14日(月)

(一) 二月分収支計算・予算対比表

3月6日の総務委員会で検討された結果にもとづく松井幸雄氏の報告を承認した。

(二) 移 転

松井幸雄氏が作成した移転に伴う経費の負担増についての検討案A・Bについての説明をきき、これを基礎に松井氏と事務局長が相武住宅と交渉を始めることとした。

(三) 雑誌委員会

先日ひらかれた委員会での討論について報告された。

(四) 書協からの申し入れ

十月の末に池袋サンシャイン・ビルでひらかれる書籍展示会の会場で洋書の即売を行うことを書籍出版協

理事会報告……………1	第48回 72会ゴルフコンペ……………2	書籍展示会のお知らせ……………6
シンガポール出版業ミッション との懇談会……………2	洋書輸入協会史(29)……………3	移転のお知らせ……………7
文化厚生委員会だより	中国における Foreign Books	外国出版社紹介 No.118 ……7
第18回麻雀大会……………2	事情……………5	広 告 ……8

会を代表して研究社から洋書交換委員長（国際書房服部貞夫氏）に連絡のあったことが報告され、討議の結果、これには参加しないこととなった。

(戊) シンガポール出版業代表团

3月15日に出版クラブにおいて同代表団の展示会が開催されることが報告された。

(己) 選挙管理委員会

委嘱した選挙管理委員会のメンバーから異議のなかったことが報告された。

(七) その他。

シンガポール出版業ミッションとの懇談会

日本貿易振興会の受け入れによって、3月6日から16日まで来日した、シンガポール出版業ミッションとJBIAとの懇談会が、3月9日正午より日本出版クラブ会議室で開催された。シンガポール側からKoh Hock Seng団長（President, Times Publishing Berhad社）以下10名、JBIA側からは小林理事長代理（丸善）以下11名が参加した。JBIA側から日本における洋書輸入・販売の現況について説明したのち、質問事項であった①日本の洋書輸入の慣行、②日本市場に受け入れられる洋書のタイプ、③各国が日本市場にアプローチした時の様々な問題、などについて懇談し友好と相互理解を深めた。

文化厚生委員会日より

第18回麻雀大会

1971年に第1回大会が催されて今回が16年目、1987年12月4日(金)の第18回大会となりました。洋書仲間の同好会も18回目となると皆顔なじみの人ばかり、和気あいの集いです。今回も紅一点メゾンホンダの本田さんを囲んで24名、いつもの場所ポニーに集合、半荘3回の戦いが始まりました。今回からは予算も大幅に増額されたので、ビールやウイスキーは飲み放題。アルコールも手伝ってニギヤカなプレイでした。終わってみれば、丸善の大野さんの代役で初参加の橋爪一衛さんが、ダントツで優勝でした。

成績表 第18回 1987. 12. 4. (金)

優勝 橋爪（丸善） ・ 準優勝 丸岡（紀伊國屋）
3位 神原（オックスフォード）
4位 上杉（UPS） ・ 5位 小沢（洋販）
B. B. 和田（日ソ図書）

最後になりましたが、今回も又、本田さんに賞品授与のお手伝いをしていただき、プレイ後のパーティも大いに盛り上りました。これからも春、冬の年2回ペースで開催しますので、皆さんのご参加お待ちしております。

第48回 72回ゴルフコンペ

1988. 2. 14. (日) 参加者15名。於：高根CC

冬2月というのに暖い日に恵まれて、ゴルフには最高の日曜日でした。天気にも恵まれてもスコアに結び付かないのがゴルフとか。ハーフで11個のOBとか、4連続のOB、又、パー4のホールをあがってみたらスコアは16等々、楽しいゴルフでした。その中で安定した成績で優勝された紀伊國屋の尼子さん、又、ベストグロス賞で準優勝の相良さん、頭が下がります。初参加のエルゼビアの深田さん、成績はとも角、楽しんでいただいて幸いでした。又ご参加下さい。

成績と順位

優勝	尼子（紀伊國屋）	46・48	net	71
準優勝	相良（協会顧問）	45・45	net	76
3位	鶴（東亜ブック）	46・45	net	80
4位	宮原（丸善）	49・49	net	85
5位	村山（ゲート書房）	50・49	net	86

B. B. 中村（国際書房）・ベストグロス賞 相良
ドラコン賞 宮原、村上（3個）
ニアピン賞 石原、相良（2個）

昨年10月の47回ゴルフコンペは丸善の宮原さんが優勝、今回の48回ゴルフコンペは紀伊國屋の尼さんが優勝、そして麻雀大会は丸善の橋爪さんが優勝。次回はどちらでしょうか？ 会員の皆様多数のご参加お待ちしております。（ST記）

洋書輸入協会史 (29)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

31 自動承認制 (AA) への移行

31.1 自動承認制移行への布石

昭和26年10月15日付、海輸第148号では、通産省より同業会会員に通達するようにとの指示があったとして、次の事項を掲げている。

記

(1) 外貨資金割当申請の時は、昨年1月以後の輸入承認申請書(有効中のもの)全部を再度提出する事。

(2) (略)

(3) 各仕入地域の予算(10~12月)は次の通り。

Dollar Area \$850,000

Sterling Area \$200,000

その他の地域を含め総計 \$1,370,000

(4) 通商弘報の下記各号を一読のこと。

○9月25日第637号輸入貿易管理令(改正されたもの)

○9月28日第640号輸入貿易管理令の一部改正要旨

輸入注意事項第50号、輸入保証額および自動承認制による対外支払手段の取極金額を算定する比率について(従来の90%以上を80%以上としたもの)

(注) 従来は90%以上の入荷で輸入完了としていたものを80%以上で良いと改正したもの。

○9月29日第641号

輸入注意事項第51号。輸入貿易管理令の改正に伴う経過措置について。

○10月8日第648号。輸入貿易管理規則の一部改正さる。

○10月11日第651号号外

輸入担保に関する制度とその運用について。(以下略) (以上)

現在の時点から以上を見れば、昭和26年の9月、10月の時期に矢継ぎ早に輸入貿易管理令及び管理規則が改正され、外貨予算もある程度増加し、過去の実績を調査するなど、自動承認制移行への布石がなされているように思える。ただし同業会理事会としては、当時から翌昭和27年3月にかけて、極東貿易の事件処理に忙殺され、そのような判断を下す余裕は全くなかった模様で、翌昭和27年の春にぶっつけ本番という形で自動承認制移行を迎え

ることとなった。このような急速な情勢の転回も、結局は昭和25年6月に始まった朝鮮戦争以来の、日本の急激な外貨事情改善と、昭和26年9月8日に行われた対日平和条約の調印の影響によるものであろう。

3.2 自動承認制 (AA) へ移行の発表

昭和27年3月14日の同業会理事会の席上で、始めて4月からAA移行の予定ということが議題となり、3月31日付の海輸第9号で次のように会員に伝えている。

記

(前略) 3月28日付の4~9月期外国為替予算の発表により、4月から書籍及び定期刊行物は下記予算により自動承認品目に入りましたので、通産省より平井、村山両事務官に御出席願ひまして今後の手続きについて御説明を伺いたいと思います。何卒萬障御繰り合せの上御出席下さい。

自動承認品目予算

ドル地域	\$ 41,000,000
スターリング地域	\$ 151,000,000
オープン、アカウント地域	\$ 57,000,000
合 計	\$ 249,000,000

(以上)

(注) 上記はすべてのAA品目の4~9月期予算である。

この通知に続き4月1日付の海輸第10号では、同日自動承認品目の第一回輸入発表があり、書籍、雑誌については

ドル地域 一社限度 \$ 100,000

ポンド地域及び

オープンアカウント地域 限度なし

となっていることを会員に知らせている。

4月4日には、前述したように、通産省の平井、村山両事務官の出席を得て臨時懇談会を開き自動承認制の説明を受けた。この報告が4月5日付海輸第12号でなされており、またその後予期しない疑問の点などについて通産省と折衝を重ねた結果が、「要領及び手続き」としてプリントされている。これは4月25日の月例懇談会席上において配布説明され、4月26日付海輸第16号により欠席

の会員にも知らされている。その要点は次の通り。

31.3 自動承認制要領及び手続の要約

第13回輸入公表（昭和27年4月1日）に於て書籍、定期刊行物（新聞、楽譜新たに追加）は、自動承認制に編入せられることとなったが、以下その要領及び手続を要約する。

- (1) 実施。昭和27年4月1日より。
- (2) 有効期間。2半期（6ヵ月）
- (3) 地域。\$、ポンド、オープンアカウント地域の全域を包含する。
- (4) 限度。\$地域だけ10万\$の限度あり。他地域は限度なし。
- (5) 担保金額。\$地域2%、ポンド、オープンアカウント地域0.1%。
- (6) 輸入承認申請。従来の通産省二課への申請を要せず、銀行へ直接申請する。6通提出。
- (7) \$地域は輸入承認許可の日より10日以内に於て送金又は信用状の開設を要する。他地域は10日以内の限度なし。
- (8) 全地域共標準外決済の申請を要する。ただし\$地域中500\$以下の場合は、標準外の申請を要しない。
——備考：標準決済とは商品を先に輸入して後から支払う場合及び信用状決済の場合を言う。標準外決済とは前金払いの場合。
- (9) 輸入期間。6ヵ月、輸入期間の延長も従来通り認められる。
- (10) 輸入及び送金の完了。輸入申請額の8割以上の輸入及び送金を以て完了。

31.4 「要領及び手続」に関する特別措置

上記「要領及び手続」には、書籍・雑誌の特性にそぐわない点が多かった。即ち自動承認制の建前としては、イ、一般輸入承認申請書による分割送金の不可能なこと。ロ、\$地域に対しては許可後10日以内に許可額の8割以上送金又は信用状開設を要すること。

ハ、標準外決済を輸入申請の都度事前に通産省に行かねばならぬこと。

とあって、書籍及び定期刊行物のような特殊な性格を持つ商品の輸入には困難と障害がはなはだしいため、同業会理事会より通産省へ陳情し、その理解を得て、次のような特別手続及び措置が取られることとなった。

記

(1) \$地域に対して

輸入申請に当っては、対外支払手段取り極めに関する許可申請書（2通）と、標準外決済申請書（2通）とを、輸入承認申請書（6通）と共に通産省輸入一課へ一括提出する。

〔説明〕対外支払手段取り極めに関する許可申請書は、10日間の送金期間を6ヵ月に延長することを申請するもので、これを含めて諸書類の一括提出を認められたことにより、分割送金、送金期限延期が一括承認され、更に標準外決済の申請をそのつど行うことの必要がなくなった。

- (2) \$地域でライセンス記載金額500\$以下の場合及びポンド、オープンアカウント地域の500\$以上の場合
これらの場合も特別な措置が述べられているが長くなるので省略する。

(3) 輸入期間

定期刊行物などは輸入完了まで1ヵ年を要するため、本期間を通算1ヵ年とする。（目下通産省において検討中）

(4) その他

輸入状況の統計作製のための報告書を3ヵ月毎に提出すること。

自動承認制においては、送金期限を超えたものは担保金の没収を厳重に行うとのこと。

31.5 自動承認制の発足の意義

昭和27年4月1日よりの自動承認制の発足によって、実際にはまだまだ多くの問題点を抱えながらも、為替割当制を脱却したということで、一大転換をとげることとなった。

大げさに言えば、自動承認制の発足で、洋書輸入に関する限り戦争は終わったといっても過言ではない。奇しくも、この年（1952）の4月28日に対日平和、日米安全保障条約がそれぞれ発効し、極東委員会、対日理事会、GHQが廃止され、占領状態を終り、日本は主権を回復するに至ったことと時期を同じくする。

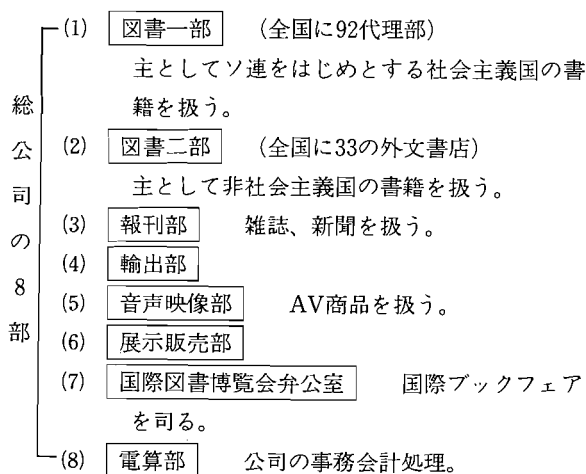
戦後の洋書輸入は、GHQの監督下であり、いろいろな経緯を重ねて昭和25年1月から民間貿易が始まったが、それも為替割当制度のために3ヵ月毎に輸入したい書籍、

それにつけても、当時の外貨事情の悪さ、爪に火をと
もすような思いで\$を使っていたことを思うと、その後
の、ことに最近の\$の湯水のような使われ方を見て今昔
の感に堪えない。日本が成長したという思いと、調子に
乗って無駄遣いするといつかまた困ることが起きるので
はないかという思いとが交錯するのは、私ばかりではあ
るまい。(続く)

——来日視察団の話から——

中国図書輸出入総公司については、すでに知っている人も多いと思うが、改めて言うと、中国の国家科学技術委員会の下部機関の一つで、中国での図書（雑誌、新聞、テープ、ビデオなどを含む）の輸出入の総元締機関である。中国での図書はすべてこの機関を通して調達または輸出される。中国国内には、上海と広州に支社とも言

現在総会社は従業員約800名。中々の大所帯であるが、内部は大きく8つの部でそれぞれ業務を分担する形になっている。



総公司ではアメリカ、日本といった海外の書籍を見込で輸入して自国内の読者にアブルーバルのチャンスを与えるやり方はほとんどしていない。出版情報を最終読者に流し、逆ルートで需要を吸い上げる方法がとられている。

◎目録作り

上の表からも容易に察しがつく様に、需要を引き出すほとんど唯一つの手段が目録であり、これを作る事が総会社の一番大切な仕事の様でもある。良質の、情報価値の高い目録を作ろうとすればする程、良質の出版情報の入手がそれ以前に必要なになる。実は今回の視察団来日の重要なテーマの一つは、日本からの出版情報を質量ともに向上させる方途をさがす事であるという。中国にとって、日本からの出版情報の現状は、どうもの足りない様である。総会社では西側諸国の新刊書誌情報を次の様に5つのタイプの目録に編集し、それぞれのスケジュールで配布している。

科技新書（科学技術書関係）	月刊	10,000部
社科新書	"	"
学術団体新書	"	"
叢書叢刊目録	不定期	"
報刊目録（新聞・雑誌）	5年に一回	5,000部

◎輸入量の状況

中国で一番多く需要のある本のジャンルは社会主義関係との事で、きわめて当然と納得がゆく。次に多いのが辞典、事典、年鑑などのレファランスもの。3番目が社会科学書。4番目が科学技術書、という順番になっている。

では輸入量の方はどうかと言うと、

1985年 5201 (万) (US\$)

1986年 4561 (万) (万)

この数字の中味である書籍、雑誌の割合は、

1985年 書籍45.5% 雑誌47.8% その他6.7%

1986年 " 39.3% " 55.1% " 5.6%

国別の割合はどうか。

米	国	26.5%
英	国	21.8%
日	本	14.5%
オ	ランダ	7.5%
西	ドイツ	7.0%
フ	ランス	2.7%
その他	(90ヵ国)	20.9%

日本が第三位で、やっぱり大切な隣国という感がある。英米の比率が接近していて、英国が善戦している。日本の場合、英米の開きはずっと大きいはずである。

◎日本との取引

国別3位の実態は

1985年 612 (万) (US\$)

1986年 547 (万) (万)

書籍、雑誌の割合

1985年 書籍49% 雑誌51% その他0

1986年 " 46.1% " 52.8% " 1.1%

日本書籍の需要は、これからもっと増大すると予測されているし、現にふえるであろう。なぜなら、日中間にはもともと地理的有利性がある上に、近年の経済関係は良好で着実に発展している。その発展を背景に、今中国では日本語学習熱が高まっている。現在、大学における日本語学習者は5万人。ラジオ・テレビによる学習者は200~300万人を数える。日本書籍の取引の増大する要因は明確にあると言える。

しかし、取引量の増加も大切であるが、中国側にとっては、それ以前に出来れば何とかしたい問題もないわけではない。例えば円高による中国内売価の高騰と言った問題。また、より切実なテーマで、日本書籍のディスカウント率の問題などなどであるが、特に日本書籍のディスカウントは、欧米諸国に比してかなり悪条件であり、このあたりの問題の解決には、日本側が大いに研究しなければならないものがある。

(SSD. S. N)

書籍展示会のおしらせ——1988

フェミニスト書籍展示会

6月14日—22日

Feminist Boon Fair

Montreal

第10回サンパウロ国際書籍展示会

8月25日—9月4日

10th Sao Paulo International Book Biennial

IFLA (International Federation of Library Associations) 大会

8月27日—9月3日

IFLA Conference

Sydney

第2回北京国際書籍展示会

9月1日—7日

2nd Beijing International Book Fair

移転のお知らせ

本協会は下記に移転しました。電話・ファックス番号に変更はありません。

〒103 東京都中央区日本橋一丁目21番4号 千代田会館5階20号室

外国出版社紹介 No.118

PAUL PAREY社 小史

PAUL PAREY社は、1848年 Karl Ferdinand Wiegandtにより農学・宗教学専門出版社としてスタートをきった。

ただし、創業時より30余年の間は、創業者の名が社名となっていた。1867年にはWiegandtの死去により、当時ベルリンで書店を営む25歳のPaul Pareyが業務を引き継ぎ、1869年には共同経営者、そして1877年にはついに経営者となった。1881年より今日の社名Paul Parey社となったわけである。

その後、Paul Pareyは農学・林学に関連する多岐にわたる分野の出版物を刊行し、「Journal of Agronomy and Crop Science/Zeitschrift für Acker-und Pflanzenbau」等の創刊・編集に尽力した。

1900年3月Dr. h. c. Paul Pareyの死後は、彼の遺言により、数年前よりPaul Parey社に勤務していた35歳のArthur Georgiが経営者となった。1911年には弟のRudolfが共同経営者となり、二人は新たな分野に進路を開拓し、サイエンスハンドブック、テキストブック、学術雑誌の出版に力を入れた。

その後、第二次大戦のため、社屋、在庫の全廃、Arthur Georgiの事故死（1945年）に遭いながらも、Rudolf Georgiとその息子Friedrich Georgiは会社の再建にあたり、ハンブルグ支店開設、獣医学出版社（Richard Schoetz ベルリン）の買収等により事業の発展を計った。

そして、数々の買収、出版物拡張により、今日では、農学・生物学・植物学・園芸学・林学・生態学・動物学・獣医学等さまざまな分野において、国際的に評価を得るまでに至った。

1848年以来、7500タイトルの書籍を刊行してきたが、そのうち約2200タイトルは現在も刊行を続けている。

このなかでも重要なものは、NICKEL/SCHUM-

MER/SEIFERLE著のTextbook of Anatomy of the Domestic AnimalsやAMMAN/SEIFERLE/PEL-LONI著のAtlas of Topographical Surgical Anatomy of the Dog, SCHEBITZ/WILKENS著のAtlas of Radiographic Anatomy of the Dog and Cat等である。ノーベル賞受賞のKarl von Frisch, Konrad Lorenz, Niko Tinbergen等も著者として名を連ねている。また、1948年以後、289タイトルが各国語に翻訳出版されている。（日本語出版 16タイトル）

現在、ジャーナルは33誌発行されているが、なかにはタイトルを独語より英語表記に変更し、掲載論文も英語のものを増強したものもある。代表的なものとしてEthology, Journal of Veterinary Medicine, Plant Breeding, Marine Ecology等、1985年創刊としては、Journal of Applied Ichthyologyがある。

今日では、ニューヨークにマーケティングオフィスを構え、今後とも国際市場進出のため、徐々にではあるが、英語の出版物増加をめざし、数々のインターナショナルブックフェアにも出展する方針である。

Paul Parey社はこの90年間近く、Georgi一族により経営されてきたが、このうち、Dr. h. c. Paul Parey (1888—1889), Dr. phil. Arthur Georgi (1953—1956), Dr. h. c. Friedrich Georgi (1965—1968)はドイツ書店、出版社協会（Börsenverein des Deutschen Buchhandels）の会長を務めた。また Dr. Friedrich Georgiはベルリン書店・出版社協会（Berliner Verleger-und Buchhändlervereinigung）の初代会長に任命され（1958—1961）、1982年以後、上記2つの協会の名誉会員となっている。これらのことから、ドイツ国内での出版社としての重要な地位、指導的立場がうかがえよう。

（日本代表事務所は1985年よりビューロー ホソヤ）

世界の最新学術情報を集積したアカデミックなジャーナルをお届けします。
 〈新刊ジャーナル〉



GORDON AND BREACH Science Publishers

New York • London • Paris • Montreux • Tokyo • Melbourne

• **Comments on Agricultural & Food Chemistry** (ISSN 0892-2101) 1987年創刊

Editor: **Robert E. Feeney** Vol 1 予約価 ¥54,000

• **Crystallography Reviews** (ISSN 0889-311X) 1987年創刊

Editor: **Moreton Moore** Vol 1 予約価 ¥28,000

• **Geothermal Science & Technology** (ISSN 0890-5363) 1987年創刊

Editor-in-Chief: **James C. Bresee** Vol 1 予約価 ¥64,000

• **Molecular Simulation** (ISSN 0892-7022) 1987年創刊

Editor-in-Chief: **N. Quirke** Vol 1 予約価 ¥74,000

harwood academic publishers 
 Chur • London • Paris • New York • Melbourne

• **Autoimmunity** (ISSN 0891-6934) 1988年創刊

Editor: **Terence J. Wilkin** Vol 1 予約価 ¥46,000

• **Biocatalysis** (ISSN 0886-4454) 1987年創刊

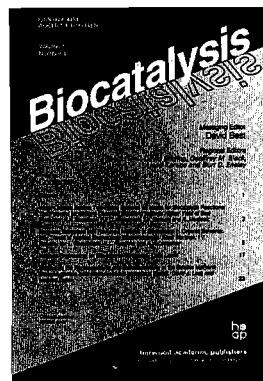
Managing Editor: **David Best** Vol 1 予約価 ¥54,000

• **Biofouling** (ISSN 0892-7014) 1988年創刊

Editor-in-Chief: **Len Evans** Vol 1 予約価 ¥64,000

• **Visual Anthropology** (ISSN 0894-9468) 1987年創刊

Editor: **Jay Ruby** Vol 1 予約価 ¥30,000



▶ カタログ、ジャーナルの見本誌をご希望の場合は下記宛て請求下さい。

📍 **洋販**(日本洋書販売配給株式会社)教育事業部

〒160 東京都新宿区大久保3-14-9 電話03-208-0181(代) FAX03-209-0288

1988年2月 通巻第252号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎ 271-6901 FAX 271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329